

# やまばと通信

2017.1.1 発行  
第 217 号  
多摩市立図書館  
042-373-7955



△ 切り絵「鳳凰」（職員作成）図案参考：『よみがえる天平文様』光村推古書院

## 今年も図書館をご利用ください

～本館企画運営係から～

今年酉（とり）年です。鳥といえば、多摩市では実に多くの野鳥の姿が楽しめます。愛鳥家の方も多いのではないでしょうか。

図書館の周りでも様々な鳥が見られます。本館近くの多摩中央公園は、毎年カルガモの可愛い親子が人気を集め、カワセミやサギ、カワウなどもやって来ます。本館の敷地内では、コジュケイが目撃されました。キジ科で丸っこく、首の赤い色が綺麗な鳥です。鳴き声が「チョットコイ」と聞こえるのが特徴的。近くに巣があるのかもしれませんが。豊ヶ丘図書館のすぐそば、豊ヶ丘南公園は多くのカモが冬を過ごし、時にはトモエガモやヨシガモといった、ちょっと珍しい種類が飛来することもあります。

今この鳥を見たよと、調べに来て教えてくれる方もいます。図鑑の他、名前の由来や写真集など、図書館には鳥に関する資料もいろいろ揃えています。

冬は落葉していて、野鳥を観察するのによい季節です。市内をぶらりとバードウォッチングしながら、図書館へおでかけになりませんか。

## ビブリオバトル開催報告

「人を通して本を知る、本を通して人を知る」

平成28年10月22日（土）開催 場所：永山公民館 軽読書コーナー



ビブリオバトルとは、発表参加者が読んで面白いと思った本を持って集まり、順番に一人5分間で本を紹介し、発表後に、参加者全員でその発表に対するディスカッションを2～3分行い、全ての発表が終了した後に「どの本が一番読みたくなったか？」を基準に参加者全員で投票を行います。そして、最も多く票を獲得した本を「チャンプ本」とする、コミュニケーションゲームです。大妻女子大学の図書館サークルOLIVE（オリーブ）との共催で実施しました。

今回紹介された本 ★はチャンプ本

- ★『プリズン・ブック・クラブ』 アン・ウォームズリー／著 紀伊國屋書店
- 『日本語のレトリック』 瀬戸賢一／著 岩波書店
- 『きつねのはなし』 森見登美彦／著 新潮社
- 『<sup>ふぐるま</sup>文軍日記—私の古典散歩—』 田辺聖子／著 新潮社
- 『カラフル』 森絵都／著 文芸春秋
- 『掏摸（スリ）』 中村文則／著 河出書房新社



## 「地域資料のご案内」

～本館地域資料係から～

『多摩プロバスかるた』 請求記号：K7291.36

このカルタは、東京多摩プロバスクラブが創立10周年を記念して製作したもので、読み札には多摩市の自然、風景、歴史、旧跡、暮らしや自然のほか、現在の施設などが「あ」から「ん」までの46句に詠み込まれていて、親しみやすい絵柄の絵札と合わせて、カルタで遊びながら多摩市のことを知ることができます。また、一緒に読み札の内容について説明した解説書も添えられています。

このカルタ製作の経緯については『多摩ニュータウン研究』No.18（請求記号：K1051.1）に詳しく述べられているので、合わせて読むとカルタの内容をより理解できると思います。この正月はいつもとは一味違うカルタを楽しんでみてはいかがでしょうか？

# 図書館職員からの本の紹介

～本館サービス係から～

『宮大工棟梁・西岡常一「口伝」の重み』

西岡常一著 日本経済新聞社 2005年

西岡常一は、先祖代々、法隆寺の修理や解体をする宮大工の家に明治41年に生まれました。祖父に幼い頃から仕事場に連れて行かれて、大工の仕事や行儀作法をみっちり仕込まれて成長します。やがて、大工見習いになった常一は、ある夜、祖父から法隆寺の棟梁だけに代々受け継がれる「口伝」を伝えられます。後に昭和の大修理に携わるようになる常一は、法隆寺がこの口伝の教え通りに建てられていたこと、だからこそ今も残っていることを改めて知ることになるのです。

1300年前の飛鳥の工人たちの素晴らしい技法と、時空を超えて、それを追い求める職人の気概と生きざまに感銘を受ける一冊です。

まだ知らない本をあなたへ

## ～「本の福袋」貸出スタート！！～

世の中に「福袋」と名のつくものはたくさんありますが、「本の福袋」なんていかがでしょう？ 図書館員がさまざまなテーマごとに本を選んで、貸出用の福袋をつくりました。袋の中身はもちろん開けてからの楽しみ。市内すべての図書館（行政資料室は除く）で実施しますので、お近くの図書館へぜひお立ち寄りください。1月4日（水）各館の開館時間からスタート。なくなり次第終了となりますのでお早めに☆



写真は、昨年のもようです。



# 「新本館を考える」市民フォーラムを開催

～図書館本館再構築基本構想策定委員会の開催状況～

本館企画運営係



△ これからの多摩市の図書館ネットワークと新本館のあるべき姿の周知を目的に説明しました。

△ 大きな時代の変革期、「知の地域創造」のビジョンをしっかりとつかんだうえで、新図書館づくりを目指してほしい、中央公園は絶好の土地、と柳田先生。



多摩市立図書館は、12月3日（土）に市民フォーラム「多摩市にふさわしい新本館を考える」を開催しました。当日は、100人近い市民の皆さんの来場がある中、ノンフィクション作家で基本構想策定委員会の委員長でもある柳田邦男先生に『「知の地域創造」と多摩市の新たな図書館の果たすべき役割』をテーマに基調講演をいただきました。

また、基本構想（原案）を説明し、市民の皆さんからご質問やご意見をいただくとともに、パブリックコメント募集を案内しました。

次回の策定委員会（1月7日）は、ついに最終回です。パブリックコメントの報告をして、いよいよ基本構想案としてまとめる予定です。

